

2025 年 JIA / KIRA 国際交流報告書



JIA 国際活動 支部事業助成 国際交流

JIA 九州支部鹿児島地域会

■はじめに

日本文化の多くは中国から大陸を伝播し、韓国を経て日本に入り変化を遂げたものが多々あり、建築分野においても隣国の韓国との関係が多数確認されています。韓国は地理的にも一番近い隣国であり、さらに、鹿児島県と全北特別自治道〔全羅北道〕は姉妹都市であることから、JIA 鹿児島地域会と KIRA 全北建築士会〔KIRA JeonBuk〕との国際交流が 2011 年からはじまりました。鹿児島から韓国全州〔チョンジュ〕へ 6 回の訪韓、韓国全州〔チョンジュ〕から鹿児島への訪日が 5 回目となります。

2011 年に鹿児島から全羅北道を訪韓し、2012 年には、鹿児島にてイ・スンヨップ元会長と、JIA 中俣元代表による調印式が行われました。その後、毎年交流を続け 2014 年には、全北大学のナム・ヘギョン先生が鹿児島大学で講演をされ、鹿児島大学と全北大学の間でも交流が生まれ、2016 年夏には鹿児島大学学生と全北大学校学生の共同チームが、ナム先生のご指導のもとワークショップを実施、韓国のコンペティションに出展して、みごと優秀賞を獲得しました。しかし、コロナ禍等の影響により 2019 年以降は対面交流の中断を余儀なくされました。この間はお互いの作品パネル交換等の交流を続け、再開の時を心待ちにしていたところ、2023 年に、全羅北道建築士会から 5 名の訪問により 5 年ぶりの対面交流を実現しました。2024 年は 8 月 25 日～27 日に JIA が訪韓し、2025 年は 10 月 13 日～15 日に KIRA 全北建築士会会長の LEE SUNG YEOL〔イ・ソンヨル会長〕をはじめとする全北建築士会の 5 名の会員が鹿児島を訪れ、日韓国際交流が実現できました。また、2026 年 2 月 22 日 23 日 JIA 九州支部鹿児島地域会建築展では、鹿児島地域会の作品と並べて、KIRA の会員作品パネルを展示しました。

ここまで続けてこられたのは、日韓の多くの方々のご協力があって継続して実施することができました。今年の KIRA の訪日に際しては、鹿児島県土木部、鹿児島市の建築関係部局の方々や鹿児島大学をはじめとする教育関係者の方々のご協力に心から感謝致す次第です。この国際交流は、2026 年度は双方での建築作品展での、両国の建築家の作品紹介等による交流を行い、2027 年度に JIA が訪韓する予定です。今後も、同じ建築家の道を歩く隣国の友であり同志として、これからも親交を深めお互いを高めあってゆく所存です。そして両国にとって意味ある国際交流であり続けることを切に願い、2025 年度日韓交流報告書のごあいさつとさせていただきます。

公益社団法人日本建築家協会九州支部鹿児島地域会

代表幹事 鯨坂 徹



2025 年度全北特別自治道建築士会 KIRA・JIA 九州支部鹿児島地域会 日韓交流

■全体スケジュール

KIRA 訪問団は、ソウル仁川空港より 10 月 11 日（金）に鹿児島空港に到着。11 日 12 日は KIRA 訪問団単独の自由行動とし、13 日（日）～15 日（火）、実質 13 日（日）、14 日（月）の 2 日間は、2025 年度の公式な国際交流の日程となった。

訪日団宿泊先：サンデイズ鹿児島 山之口町 9-8 099-227-5151（11～15 日 KIRA はレンタカー移動）

□10 月 13 日（月）JIA にて県内案内

KIRA：5 名+JIA：鰹坂、宮崎、水本、下山、岩田、宇都、藤崎 8 名=計 12 名

08:00 サンデイズ鹿児島出発

09:30 なのはな館 米永書店

10:30 岩崎美術館（12 名宇都団体予約） 11:45 に知覧に向けて出発

13:00 高城庵（たきあん）にて昼食

15:45 加世田重伝建地区 16:45 発

18:00 ホテル着

19:00 ウェルカムパーティ 和総（天文館） 16 名

（KIRA：5 名+JIA：山崎、鰹坂、宮崎、志賀、水本、下山、岩田、宇都、藤崎、木元 10 名+朴先生）

□10 月 14 日（火）

07:00 サンデイズ鹿児島出発

07:30 朝食会 新港食堂（魚類市場内）（KIRA：5 名/JIA：鰹坂 水本 宮崎 藤崎 岩田 5 名=計 10 名）

09:15 鹿児島県庁表敬訪問

18 階展望フロアで記念撮影

1. 鹿児島県土木部 建築技監様 挨拶（鰹坂 水本 宮崎 岩田 下山 藤崎 朴先生）

2. 全北特別自治道建築士会 会長 挨拶

3. 鹿児島県の建築紹介 鹿児島県土木部建築課

4. 日本建築家協会鹿児島地域会 地域会代表挨拶

5. 記念品交換後 閉会

10:25 鹿児島市役所本館玄関到着後全員で港大通公園にて記念撮影

10:40 鹿児島市表敬訪問（鰹坂 木元 宮崎 岩田 下山 藤崎 朴先生）

1. 鹿児島市建設局 建築部長様（住宅課長_代読）挨拶

2. 全北特別自治道建築士会 会長挨拶

3. 鹿児島市の建築紹介 鹿児島市

4. 日本建築家協会鹿児島地域会 地域会代表挨拶

5. 記念品交換後 閉会

- 11:40 鹿児島大学表敬訪問 鹿児島大学工学部建築学科 曾我学科長挨拶
 (KIRA：5名+JIA：鰐坂 宮崎 下山 岩田 藤崎 辻 朴先生 計12名)
- 12:00 昼食 ヴェジマルシェ：鹿児島大学稲森記念館2階
 (KIRA：5名+JIA：鰐坂 宮崎 下山 岩田 藤崎 辻 朴 柴田教授 増留准教授)
- 13:30 鹿児島大学 稲盛会館見学
- 14:00 国際交流会議 (KIRA 5名+JIA：鰐坂、宮崎、下山、岩田、藤崎 5名+辻、朴=計12名)
- 13:30 稲盛会館見学
- 14:00 国際交流会議 議題：日韓での建築の課題の現況 今後のJIA/KIRAの交流について
- 18:30 レセプションパーティー 吾愛人天文館本店 (26名)
 (KIRA 5名+来賓5名+鰐坂 宮崎 下山 岩田 藤崎 肥後 志賀 水本 木元 徳永考 石川 藁田朋 朴先生 平川 岡永 永野)
- 来賓：鹿児島県上村建築技監、鹿児島市堀切建築課長、西園建築士会会長、八反田事務所協会会長
 鹿児島大学木方教授

□10月15日(水)

KIRA 自車レンタカーにて鹿児島空港へ移動し ソウル仁川空港行き 12:00 発



最終日のレセプション終了後の記念撮影

連番	寫眞	姓名	職責	性別
1		이성열 李成烈 LEE SUNG YEOL イ・ソンヨル	全北特別自治道建築士會 會長	男
2		이태원 李泰元 LEE TAE WON イ・テウオン	全北特別自治道建築士會 副會長	男
3		박광성 朴光成 PARK KWANG SEONG パク・グァンソン	全北特別自治道建築士會 副會長	男
4		장영기 張榮起 JANG YOUNG GI チャン・ヨンギ	全北特別自治道建築士會 總務理事	男
5		육광돈 陸光敦 YUK KWANG DON ユク・グァンドン	全北特別自治道建築士會 建築文化委員長	男

■来日記録

□10月13日（月）

KIRA LEE SUNG YEOL [イ・ソンヨル会長] の訪日団5名が宿泊している天文館のサンデイズ鹿児島に8時前に集合。まずは握手で、昨年夏以来、約1年ぶりの再会を喜ぶ。JIA のワゴンに KIRA 3名、KIRA のレンタカーに KIRA 2名と JIA メンバーが乗り込み、8時に JIA の先導車含めて3台に分乗して指宿に向けて出発した。市内のコンビニエンスストアでコーヒータイムの後、大隅半島を眺めながら錦江湾沿いの国道226号を南下し、なのはな館（設計高崎正治 1998）に9時30分に到着、中央ホールの内部を見学し、アリーナや屋内ゲートボール場、野外ステージ等を視察した。



指宿では、JIA 鹿児島地域会宮崎前会長の設計による米永書店、岩崎美術館を視察した。岩崎美術館では本館（1979）工芸館（1987）だけでなく、本館の背後の庭園や管理棟（1983）の外観を視察することができた。



前日に KIRA の訪日団は、池田湖等を視察しており、その際なのはな館を遠望し、なんだろうかと思われていたようで、内外部を見学し感銘を受けられた様子で、図面を送るよう要望されていた。指宿視察後、知覧麓に向かい、昼過ぎに到着、南九州市知覧重要伝統的建造物群保存地区内の高城庵で会食を行った。その後、南九州市知覧重要伝統的建造物群保存地区を散策した。





知覧では、日本の伝統構法の民家について解説があり、全州に多い、韓国の韓屋との比較がされ、多数の質疑がだされていた。知覧散策の後、加世田麓重要伝統的建造物群保存地区に向かう途中、KIRA レンタカーは下山理事の設計したおののもりこども園に立ち寄った。加世田麓では、旧猪鹿倉家住宅（鯉坂代表宅）で休息、全体説明の後、周辺を散策、旧鯉坂正一郎邸（登録有形文化財）等を視察した。今回、IPHONEの通訳機能を利用しお互いのコミュニケーションをとった。そのため、写真ではモバイルホーンを見ている参加者が多く写っている。お互いの伝統建築の見識を深めることができ有意義な機会となった。



おののもりこども園



旧鯨坂正一郎邸 下記3枚は旧猪鹿倉家住宅



加世田から鹿児島市内に戻り、13日は、KIRA 訪日団のウェルカムパーティを和総（天文館）で行い、日本側からは、JIA 九州支部鹿児島地域会協力会 佐藤代表、鹿児島大学工学部朴助教はじめ 16 名が参加した。途中、昨年度国際交流に参加した協力会佐藤代表から記念品の贈呈が行われ、KIRA 訪日団からも、土産が各自に配られた。このウェルカムパーティでは、朴先生が通訳をしてくださり、楽しいコミュニケーションが行われ、参加者全員が、国際交流の大切さと意味を改めて実感できる機会となった。鹿児島大学工学部朴助教は、国際交流の事前打合せ、彼らの来日後のスケジュール等々、詳細にわたり幾度も調整いただき、今回の 5 回目の KIRA の訪日の第一目を無事実施することができた。



□10月14日（火）

KIRA 訪日団が宿泊している天文館のサンデイズ鹿児島に早朝7時に集合。新港食堂（魚類市場内）で朝食会を行った後、鹿児島県庁へ。



鹿児島から全州を訪ねると、毎朝、おかゆの朝食の誘いを受けます。韓国ではお粥は健康的な朝ごはんの定番で、朝早くから朝食営業しているお粥専門店も多数ある。特に、全州では伝統的なコンナムルクッパ（豆もやしクッパ）が定番で、胃に優しいおかゆ（粥）専門店が多数、そこで、今回は魚類市場を見学し、新港食堂で刺身定食の日本の朝食を体験してもらった。

□鹿児島県表敬訪問

鹿児島県庁 18 階の展望ロビーで、挨拶と記念撮影の後、18 階会議室で、県、KIRA のあいさつ、鹿児島県からの建築・住宅行政の説明、意見交換を実施、最後に、記念品交換を行った。



- ・上村建築技監挨拶

鹿児島県の地理的特性と歴史的建築の特徴についてふれながら、訪問に対して謝意と歓迎の挨拶

- ・KIRA LEE SUNG YEOL [イ・ソンヨル会長] 挨拶

2023 年 10 月にも県の建築行政の説明を受け、鹿児島は美しい景観と豊かな文化遺産が調和し「東洋のナポリ」と言われる独特で魅力的な都市と確信した。今回の訪問で、先進的な都市開発・インフラ事例、自然災害への対策、安全な建築基準について学ぶ意向と、謝意を伝えた。

・鹿児島県建築・住宅行政の説明

建築の技術職員が約 100 名弱勤務、建築課の主な業務分野は、民間建築物への各種指導/建築物の省エネ対策を地球温暖化対策の一環として推進。また、建築物の耐震化に注力している。耐震性の向上だけでなく、地震後の建物調査も実施し、住民の安心・安全につなげている。

営繕室では、県有建築物の整備等を担当し、住宅政策室では、住宅全般を所管し、各種計画を推進している。空き家が多い地域特性に対応し、空き家対策を重点的に実施中。住宅セーフティーネットとして、住宅に困窮する人への賃貸住宅提供も強化している。住まいのセーフティーネットの根幹である県営住宅の整備・管理を実施している。

・伊佐湧水警察署の事業概要と完成報告 _

旧庁舎は昭和 43 年建設で、55 年にわたり警察活動の拠点として地域に親しまれていたが、老朽化と所員増加による狭隘化が進み、来訪者に不便が生じていた。令和 2 年から 6 年の 5 か年事業として実施した。

・県営住宅「松陽第 2 団地」の取り組み _

県営住宅の整備・管理を行い、民間住宅対策も含め「安全・安心・環境」を基本として事業を展開している。総戸数 228 戸。子育て世帯の特化に取り組み、「子供がいないと入れない」という入居条件でこの団地は 4 人程度の世帯が標準となっている。



・質疑高等

解体・リサイクル法の適用と届出・分別 について

民間建物を含む解体は「リサイクル法」に基づき分別解体を行い、県や鹿児島市へ事前届出が必要
福祉のまちづくり条例と設計段階でのバリアフリー配慮

県には「福祉のまちづくり条例」があり、施設整備は同条例に基づいて設計段階から適合させる運用
を実施。チェックリスト等を用いて適合性を確認し、県の施設は当然条例に合致する建物となってい
る。民間建物は県や鹿児島市へ届出の上、審査を受けるが、韓国の事例のような「審査に多大な期間
を要する」という事例は聞いていない。

・最後に記念品の交換を行った。その後、鹿児島市役所へ

□鹿児島市表敬訪問

市役所到着後、まず改修中の本庁舎を背景に記念撮影を行い、その後、会議室で双方の挨拶、市の概要紹
介と天文館地区再開発事例の説明、記念品交換を行った。



KIRA、鹿児島市の挨拶の後、鹿児島市から市の魅力として、桜島、錦江湾、温泉、焼酎、黒豚、黒牛
などが紹介され、鹿児島市が、鹿児島県の人口は152万人、鹿児島市の人口は58万人で、県人口の約
4割が集中する最大の都市であるとの説明があった。

その後、天文館地区の市街地再開発の事例紹介では、複数地権者が共同で建て替えを行う手法
で、地権者は従前資産に見合う新ビルの床取得か従前資産売却を選択できる。新ビルで生じた床を売
却し事業費に充当する仕組みが説明された。地権者の組合が事業を施工し、県が組合を監督、市は補



助金交付や指導助言を行い、組合と共に事業推進する役割分担が示された。天文館のL字型敷地で、従前の地権者は17名。完成後の建物は延べ面積3万6600㎡、15階建て、高さは60メートル。図書館が4,5階に設置され、子どもが遊べる空間や落ち着いて利用できる空間を整備した。併設カフェも紹介された。ホールは6階にあり、多目的利用が可能。屋上広場を併設。15階に無料の展望スペースがあり、桜島や天文館の街並みを望める。総事業費188億円。工事費は約7割の135億円。収入は床の売却で125億円。補助金は国33億円で県と市が各15億円を交付して進めた。説明終了後、質疑応答、記念品交換を行った。その後、KIRA訪問団は、車に分譲し、鹿児島大学へ。



□鹿児島大学表敬訪問

鹿児島大学到着後、鹿児島大学工学部建築学科学科長の曾我教授を表敬訪問、その後、稲盛会館（安藤忠雄設計 1994年竣工）を見学し、1階会議室で国際会議を開催した。なお、鹿児島大学稲盛記念館2階のヴェジマルシェで昼食会を行った。

□国際交流会議

交流の目的と最近の経緯

鹿児島での交流継続方法について意見交換を行った。コロナ期間中の活動中断があったため、近年は毎年開催してきた。JIAは、30人規模、KIRAは500人規模であり、規模差が交流運営に影響があること、日本の建築業界では省エネルギー法の強化や設計関連の書類増加により業務が多忙化しており、毎年開催は厳しいという意見をJIAより伝えた。過去に「2年実施・1年休止」というサイクル（「3年に2回」）の話があり、具体的には、2年続けて実施し、次の1年を休止する方向で合意。来年は、対面交流は休み、再来年に訪問することとなった。

交流時の費用負担ルールは、公式行事（レセプション、ウェルカムパーティー等）は招待側が負担する現行の方法とし、朝食・昼食など日常の食事は今後「折半」とすることで合意。宿泊費は泊まる側が支払う現状運用の説明も共有した。また、今回のKIRAのレンタカー手配等については、観光目的で用意した車を交流期間に流用しただけであり、過度な配慮は不要との説明があった。

招待側の受け入れ人数は、基本「5名」を基準とし、+1~2名の増加は対応可能とした。一方、10名は負担過多のため、人数が大幅に増える特別な場合は、その都度協議し、費用負担や運営方法（送迎・アテンド体制等）を別途決めることとした。

協定書（2011年作成）には人数、交通費、食事負担などの基本合意が記載され、言語間で相互翻訳のうえ調印済み。協定書末尾に「都度確認・変更時は相互確認」の項目があるため、全面改訂は行わず、今回協議した変更点を「追加記録」として追補する方針で一致。作成・翻訳の負担が大きいことから、原本は維持し、今回の合意事項のみを明確に記録・交換して確認する。

全国会員数は「1万8千人」、当該地域は「500人」（交流開始時は「300人」から増加）で、女性比率は「2割~3割」。



建築関連の情報交換（KIRAからの質疑への回答）

日本の建築確認申請等の期間と運用

審査期間の目安は1ヶ月から2ヶ月程度。法定審査期間は「35日間」（土日除外のため「1.5か月ぐらい」の運用感）。不備がある場合はその分延長される。民間検査機関の導入（約「25年」前）



により、役所のみの審査で長期化していた状況が改善し、法定期間どおり「35日間」で降りる運用が一般化。

2025年7月施行の省エネ改正により、審査に時間を要する可能性がある。現場ではまだ経験が少なく、慣れるまで時間がかかる見込み。省エネ審査は「省エネ計算」と「省エネ適合（適版）」の2段階構成で、適合チームが別に確認する運用。建築確認と省エネは「並行申請」で対応可能。早ければ「一ヶ月ぐらい」で進むが、作成（書類・計算準備）に時間がかかる。省エネ計算自体は「2週間で終わる」。適合通知を取得してから一緒に提出する場合は「一ヶ月」程度かかるケースがある。土地許可・造成に関する手続きは、土地の種別（宅地、山、畑等）により、確認申請前に別部署での許可が必要となる。土地関連の許可取得だけで「半年ぐらい」かかる場合がある。



屋根上の仮設や増築の扱い

日本では屋根上に部屋を作るなどの行為は、許可を取らない限り「違法」で、事例としてはない。雨漏り対策で屋根を追加する場合でも、高さが変わる等の「構造部の改造」に該当すれば確認申請が必要。下地の処理変更が過半を超える場合は「構造部の改造」として扱われる。韓国では仮設的な屋根

上増築が多く、問題化している。

竣工検査と姉齒問題後の運用強化

過去に「姉齒問題」（約「25年」前）により、構造計算書の不正が社会問題化し、運用が厳格化した。以前は竣工時の「検査済証」取得率が「5割以下」だったが、現在は「100%」に近い。竣工後、日本では建築行政による定期的な査察は基本的にはないが、消防は毎年の検査（特定検査等）を実施し、是正措置が行われている。

空き家・長屋の活用と地域事例

長屋の小規模物件が存在し、賃料が安いことからレンタルスペースやゲストハウスとして活用されている事例がある。若年層は新築志向が強い一方、建設コスト上昇により「新築ではなく既存ストックを使う」リノベーションへの関心が高まっていく可能性もある。「JIA リノベーションアーカイブ」で、世界中の改修事例が紹介されており、文化庁のホームページからJIAのリノベーションは、リンクが可能となっている。

カーボン規制の現状と影響（オペレーショナル/エンボディッド）

今年からオペレーショナルカーボンの規制が始まったとの説明があり、2030年からエンボディッドカーボンの規制を日本で開始する方針を国交省が示している。概算として「RC建造物を1㎡建て替えると1tのCO₂が出る」とも言われ、コンクリートに含まれるセメントがCO₂排出の原因となっている。そこで、日本の建設会社が「セメントを使わないコンクリート」の開発を進めている。韓国も2030年までに対応が必要で、民間のみでは難しいため、市役所・区役所など公共施設のリノベーションを先行させているとの報告があった。公共建築においてリノベーション案件が新築より評価される傾向。今後5年間は公共分野の仕事が大きく増える見込み。

BIM (Building Information Modeling) の必須性と日本の遅れ

エンボディッドカーボンの規制運用にはBIMが不可欠であり、資材・部材ごとのCO₂排出量を部品レベルで算出・集計する仕組みが必要となっている。韓国ではBIMのプログラムの標準化が進み投入すれば自動的に算定・帳票化できる。日本ではBIMの浸透がまだ十分ではなく、規制実装や算定の実務運用に課題が残っている。KIRAより、BIMを使った設計をしているかの確認があり、使い方は理解していても、自社で常時扱うわけではない状況を説明した。

伝統的な木造建築の規制や耐震化

日本では1950年に建築基準法が制定され、それ以前の伝統的な木造の構法が否定された歴史がある。1950年から60年頃に建築学会が「木造禁止令」を出し、撤回していない。現在の木造の在来工法は、伝統的な構法と異なった、筋交い（バットレス）や面材で固定する耐震化が行われている。



この方法は計算可能だが、伝統的な貫工法のように揺れて地震力を吸収していくような構造は計算が難しい。韓国側でも、伝統が断絶した中で現代にどう繋ぐべきかが課題となっている。また、日本の文化財保護法では「保存と活用」を掲げており、保存活用計画で「どこを残し、どこを変えるか」を定めて修理や活用が進められているが、手間や課題も多く難しい。一方、一般建築のリノベーションは文化財より規制は少ない。

集成材や CFT 等による木材利用

鹿児島には、集成材と CFT の大きな工場があり、次回訪問時に見学計画に組み込むことも可能。KIRA から、木造建築に強い関心が示され、県内産木材や地域に根ざした工法を学びたいとの話があった。その他、標準報酬基準や、報酬の実態と地域差、建築主と設計者の関係等の質疑があり、基準だけに頼らず利益を上げるための取り組み事例を共有していきたいとの発言があった。写真撮影を行い、会議後の予定等の確認を行い閉会した。



□レセプション

国際交流会議終了後、鹿児島市内天文館の吾愛人（わか）本店でレセプションパーティを開催した。鹿児島県上村建築技監、鹿児島市堀切建築課長、西園建築士会会長、八反田事務所協会会長、鹿児島大学木方教授を来賓にお招きし、ご挨拶をいただいた。

JIA 鯨坂代表挨拶

KIRA の方々へ来日の御礼、来賓の方々への御礼の後、JIA 鹿児島と KIRA（韓国建築士会）との交流は 2011 年に始まったことを報告。昨年は鹿児島から訪韓し、今回で 6 回目の相互交流となる。コロナ禍で中断した時期もあったが、毎年作品パネルの交換展示を続けてきた。昨年の訪問では、韓国の古民家や大学を訪れ、非常に有意義な機会となった。今後も建築家同志として親交を深めていきたい

KIRA イ・ソンヨル会長挨拶

鹿児島への招待に感謝するとともに交流が続いていることを嬉しく思う 2023 年 10 月に鹿児島を訪問した際、現代建築と昔の建物が調和している様子に感銘を受けた。両地域の建築文化や産業発展のため、人的交流は非常に重要。この交流が両国の発展のきっかけとなることを確信しており、今後さらに活発な交流を通じて友情を深め、より良い建築の未来を描きたい。次の交流は 2027 年になるが、しっかりと準備を進めたい。



鹿児島県上村建築技監挨拶

全羅北道建築士会の皆様を歓迎する。県としては 2000 年から交流があり、コロナ禍を経て再会できたことを嬉しく思う。鹿児島には知覧の歴史的な街並みや、旧集成館などの近代化遺産、桜島や屋久島などの豊かな自然、黒牛・黒豚・焼酎などの豊富な食がある。今回の滞在で鹿児島の魅力を再発見してほしい。この交流がますます発展することを祈念する。

鹿児島市堀切建築課長挨拶

2011 年以來の相互交流が続いていることを喜ばしく思う。全羅北道も鹿児島市も豊かな歴史遺産を持つ。鹿児島市は、桜島や錦江湾といった自然環境と都市機能が調和した、持続可能な都市づくりに取り組んでいる。日韓共通の課題である少子高齢化社会に対し、建築士には多様化する社会的ニーズへの対応と社会的責任を果たすことが求められている。活発な意見交換は大変有意義。鹿児島の食を楽しみながら親睦を深めてほしい。

鹿児島大学木方教授挨拶

コロナ禍を経て、人と人が顔を合わせて交流することの重要性が増している。インターネットや AI が発達し、情報は簡単に入手できるが、その土地の空気や環境の中で本物の建築を見なければ、なぜそうなっているのかは本当に理解できない。これは両国の学生にとって同じこと。鹿児島大学としても、全羅北道の大学と学生交流を積極的に続けていきたい。

その後、鹿児島県建築士会西園会長の挨拶と乾杯のあと、意見交換がはじまった。



今回は 15 年目となるため、15TH ケーキにナイフカットを行いました。





最後に（一社）鹿児島県建築士事務所協会八反田会長より閉会の挨拶があり、記念撮影を行い、レセプションが終了しました。再来年、韓国で再会することを誓い、別れました。

翌日 KIRA 訪日団は、ホテルから手配されたレンタカーで鹿児島空港に向かい、無事、全州（チョンジュ）に帰られました。今回、事前の調整、ウェルカムパーティ、公式訪問、国際交流会議、レセプション等々、鹿児島大学工学部建築学科朴光賢助教が通訳と連絡等を担っていただきました。心より感謝申し上げます。



KIRA 全北建築士会の作品パネル展示

韓国の KIRA 全北建築士会の作品パネル(A1)23 枚を、JIA 九州支部鹿児島地域会の建築展(2027.2.22～23)に鹿児島市都市景観重要建造物「薩摩倉庫運輸石蔵」で展示した。2 日間で約 100 人が来場した。22 日は会場で JIA ジュニア会員徳永孝平「物語を纏う建築」のレクチャーを実施した

Architecture Exhibition of JIA in Kagoshima

建築展 2026

2月22日(日) - 23日(祝・月)

12時～20時 / 最終日は17時まで

薩摩倉庫運輸石蔵 / 住吉町5-4

主催 / 日本建築家協会 (JIA) 九州支部鹿児島地域会

特別協賛 / 薩摩倉庫運輸株式会社



例年開催している日本建築家協会九州支部鹿児島地域会の建築展を、住吉町の鹿児島市重要景観建造物・薩摩倉庫運輸石蔵で開催します。鹿児島県内の大学・短大・高専・専門学校の卒業設計の優秀作品 (JIA 鹿児島会賞)、JIA 会員の作品、県姉妹都市の韓国全北特別自治道 (旧全羅北道) 建築士会の作品を紹介します。22 日の夕刻 18 時から、レクチャー (対面と WEB 放映等) も開催いたします。どなたでもご参加できますので是非おいで下さい。[無料]

2月22日(日) 18:00～ 物語を纏う建築 (徳永孝平)

<https://www.jia-9.org/kagoshima/>

問い合わせ先 JIA 鹿児島地域会事務局 (藤崎設計) 099-284-0240



パネル展示の様子 下は22日夜のレクチャーの状況、約40人が参加した

